

6 札幌の景観色70色・使用上の解説

カラーチャートの70色は10のタテ列、7のヨコ列でできています。タテ列は色相の列で赤系(第1列)～無彩色(第10列)まで。ヨコ列は明度9.0前後(A列)～2.0前後(G列)の列です。この70色の各色ごとに一般的呼称を付け、それぞれに持っている色の属性や使用上の要点などを配色票で解説しています。配色票では、1つの色と「グループ化された色との関係」を見ることができます。

- ① 色の配置：「両隣」を意識した配色
- ② 3色配色構成：アクセントカラーの考え方(割合・リズム・バランスなど)
- ③ 全体構成：街並みなど、より広い面積において全体に対する効果的な割合と配色

色の特性については、全体の景観色を配色構成で考えるときの参考にしてください。

*お願い： 70色は、特色インクや特定の色材の固有色のような既製色とは対応していませんので、記載しているマンセル値を参照してください。色名には市内の地名と同じものがありますが、札幌市固有のイメージカラーを意識していただくためにネーミングしたもので、その地域について特定のイメージを与えるものではありません。

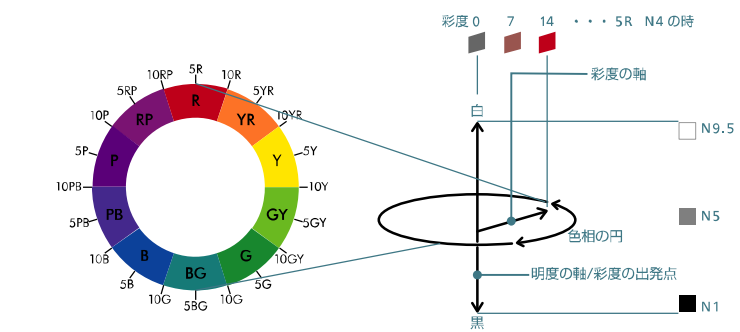
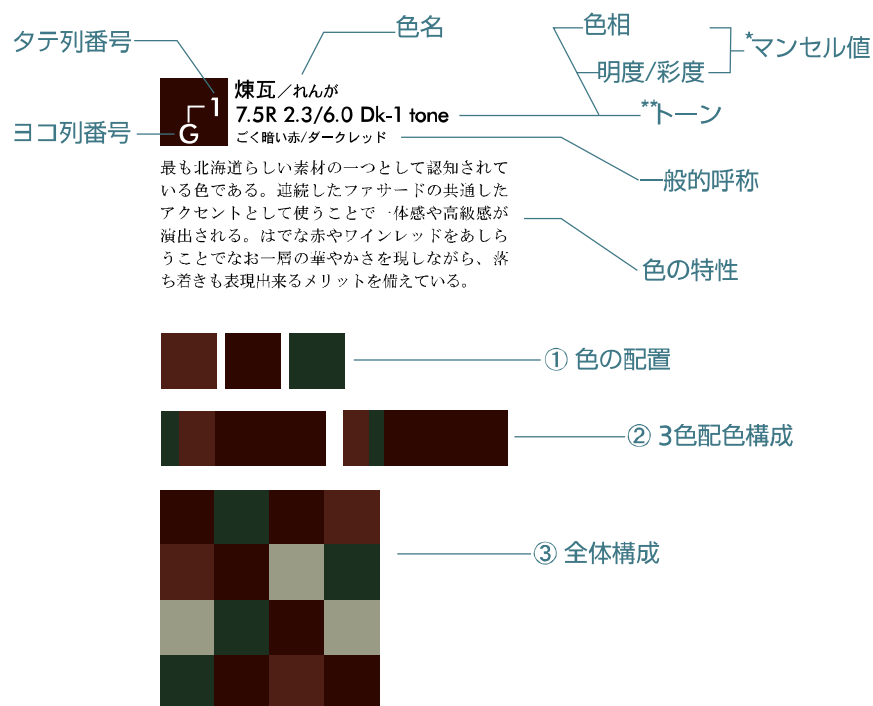


図9：*マンセル値 色相 [Hue]・明度 [Value]・彩度 [Chroma] の関係
5Rの純色はマンセル値で表すと、5R 4/14 となる。

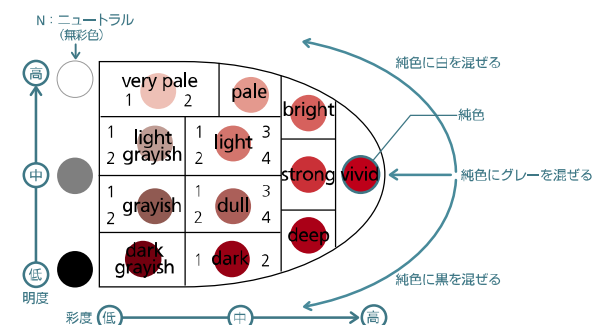
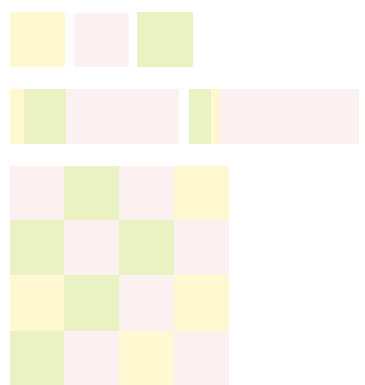


図10：**トーンによる分類 [日本カラーデザイン研究所による]
明度と彩度から生まれる色の調子。各色相ごとに同じように展開される。

カラーエッセンス70 - 配色票 -

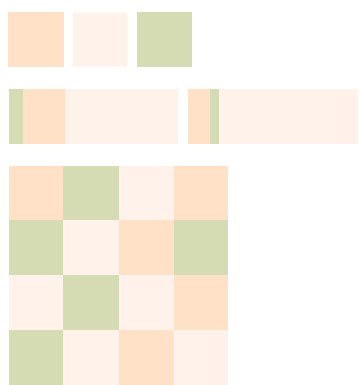
1 薄桜/うさざくら
10RP 9.0/0.8 Vp-1 tone
ごくうすい赤/ペールピンク

この色はかなり大きな面積に単色で使用可能である。平面的な処理に加えて少し表情を変化させ、艶や光沢感を多少消すなどでデリケートな陰影がつく。周りの淡いトーンとの比較によって持ち味が広がる。春の夕暮れ時や、朝日が当たるとより一層色みが強調される。



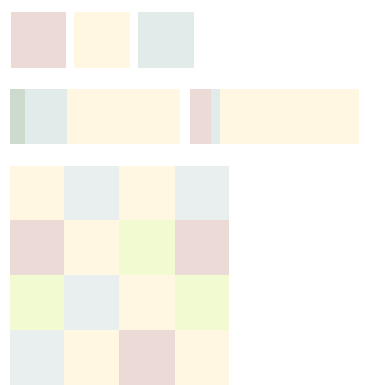
2 雪灯/ゆきあかり
2.5YR 9.0/0.5 Vp-1 tone
ごくうすい橙/ペールクリーム

この色はいろいろな場面に大きくも小さくも使い勝手の良い特徴を持つ。特に光沢があってもなくてもそれなりに見やすくガラスやアルミなどの金属的な材料とも合わせやすい。一日中どの方位からも同じような見え方になり、陰影もデリケートにつき処理しやすい色である。茶系の濃淡や木々の緑ともマッチングしやすく自然に馴染みやすい。



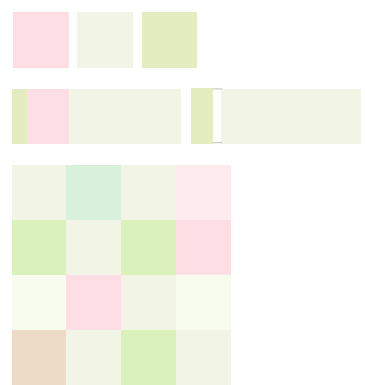
3 乳白/ミルクースノー
10YR 9.0/0.5 Vp-1 tone
ごくうすい橙/ペールクリーム

白に近いが白ではない。建築物に最も多く使われるアイボリーホワイトである。外装から内装、橋梁やテラスや装飾的な手すりなど大面積から小面積まで使い方が自由な特徴を持つ。材料も豊富で、柔らかい素材からかなり硬い素材まで応用範囲が広い。



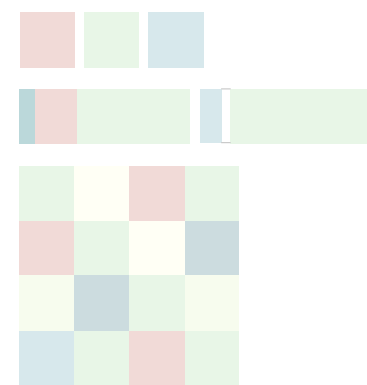
4 鈴蘭/すずらん
5GY 9.0/0.5 Vp-1 tone
ごくうすい黄緑/ペールグリーン

アイボリーホワイトよりも少し色みがあるが上品さや柔らかさを演出しやすい。表面の光沢感を少し減らすとさらに色の良さが現れる。くすんだピンクや黄緑とのアソートで全体をロマンティックに表現することもできる。



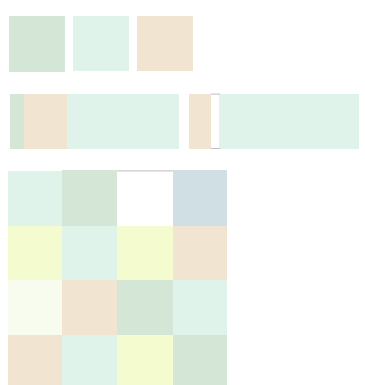
5 陽光白/シャイニングホワイト
10G 9.0/0.8 Vp-1 tone
ごくうすい緑/ペールグリーン

東側や北側に朝日が当たりまぶしく光る様子であり、金属質な仕上げがイメージやセラミックの表面処理がふさわしい。この色に周辺の緑を映すと落ち着いたままり感が出てくる。逆に夕日がまともに当たるところでは色が変化してしまい、この特徴がなかなか出にくい。



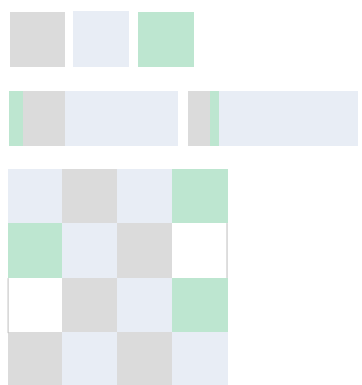
6 氷白/アイスクリーン
5BG 8.5/1.0 Vp-1 tone
ごくうすい青緑/ペールブルーグリーン

水の微笑。冷たく硬いイメージであるが柔らかな曲面やガラス、透明感のある材料との組み合わせで内部の照明効果も手伝って控えめな優しさが伝わる。特に陽が短い北国の冬にすっきり見えて、夏場の緑にも爽やかな存在感を発揮する。



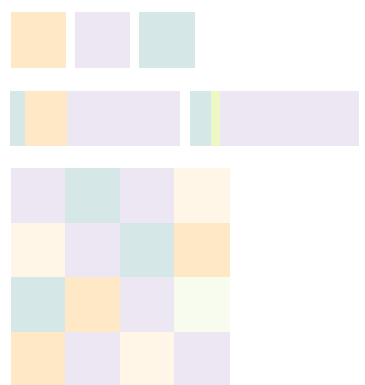
7 氷柱/つらら
7.5PB 9.0/2.0 Vp-2 tone
ごくうすい青紫/ペールパープル

この冷たさは大面積になるとさらに強調される。全体にデザイン形状が縦横割や細い部分に使われる。金属質のグレーや濃紺と組み合わせられてそれなりの力強さを構成できる。細かなビストライプや全体にスモークをかけるなど表情を変えるといろいろな場所に使えるようになる。



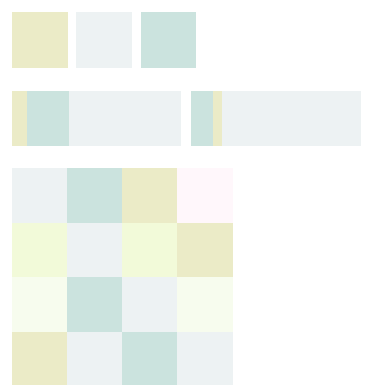
8 雪花/せつか
2.5P 9.0/2.0 Vp-2 tone
ごくうすい紫/ペールパープル

ほんの僅か紫色がさしてある。昼間の自然光ではほとんど白に見えるが、朝夕の光では微妙な色味が演出される。表面のざらつきやパターンなどでエレガントで気品のある外観に仕上がりますが、派手な色や濃いトーンを加えるなどの使い方を間違えると極端にイメージが下がってしまう。



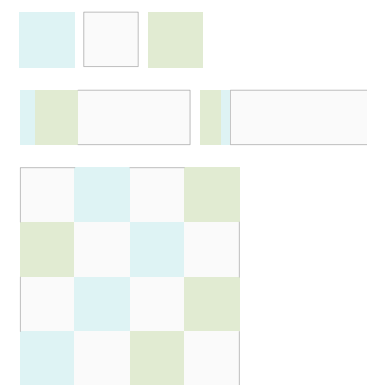
9 水晶白/クリスタルホワイト
10B 9.0/1.5 Vp-1 tone
ごくうすい青/ペールブルー

ほんのり青みを感じる程度のクールな白。鏡面やラスタースなどの組み合わせなど広く使われる白の範囲であり、凹凸の変化で陰影がつくとなお一層色みが強く感じられる。微妙であるがすっきりとした構造物を印象づけてくれる。



10 新雪/しんせつ
N9 N9
白/ホワイト

これほど色として使い勝手の良い色はない。無彩色の中でどこに使われても問題のない非常に便利であるが、使い過ぎると全体に薄められてしまいインパクトが弱くなる。そのためこの色にグレーを加えて多少灰色にくすませて使われることが多い。退色や汚れなどメンテナンス上の問題はありますが、この白を多様することはセンスアップさせるもっとも簡単な配色効果の一手法である。



*この資料は印刷による表現であり実際のマンセル値とは異なりますので、正確には塗装見本を参考にしてください。